

石西礁湖自然再生協議会 第9回生活・利用部会

議事概要

平成24年3月26日(月)13:30-15:00

石垣港離島ターミナル1階第一会議室及び第二会議室

《議事3-1 竹富南航路の整備に関する試験施工の状況について》

鹿熊氏：委員会の紹介だが，試験施工を実施した場所と同じような平坦な場所では，同じ工法でOKと感じた．本施工では，でこぼこした場所が多いため，次の年にずらしてでも最適な工法を検討した方がよい．

野口氏：凝集剤Cの成分は？

事務局：塩化アルミニウムである．塩素は塩の成分で問題ない．アルミニウムについては工業用水等の基準はないが，飲料用水で基準がある．試験施工では，20m³水槽の中ではあるが，飲料水の基準の6倍程度の値が検出されたことがあった．20m³あたり4リッターの凝集剤を使ったが，現在必要最小限の投入量を模索している．公害の基準になるようなものではなく，現時点で予測されるような環境リスクはないと考えている．

野口氏：石西礁湖のようなサンゴ海域で使用した例は？

事務局：石西礁湖以外の工事では，浚渫後の濁水を船上に吸い上げることがないので，凝集剤も使わない．宮古で用例があるが，特に問題となっていない．凝集剤Aも組成がアルミニウムであるが，沖縄を含めて実績がある．

野口氏：サンゴに対しての影響についてデータをとったことがあるか？

事務局：とったことはない．室内で生物生息試験（水槽）を実施したが，濃い濃度でも生物（エビ・シャコガイ）は生き続け，それに関しては問題なかった．

野口氏：もずくなど，海産物への影響は？蓄積されて体内に入ることはないか？漁業者にも影響がでる．後々影響が出たのでは取り返しが付かないので，慎重に検討してほしい．

部会長：その他に試験施工についての報告事項等ありますか。

平安名氏：今回の試験施工の影響について船からの報告はない。

黒島氏：船舶の航行に特に影響はなかった。

吉田氏：海流に影響があるかどうかについては、現場を見ていないので判らない。

平野氏：以前から相談頂いており、特に問題ない。

《議事 3-2 竹富南航路周辺海域利用連絡調整会議の状況について》

鹿熊氏：去年の夏，追い越し禁止ルールが出来てから，守らない船があるという声を漁業者から聞いたことがある。解決したのか？

事務局：事務局でも聞いており，船会社が判る場合は連絡した。守らない意思があるというわけではなく，周知徹底の問題と思っている。ルールが出来た当初よりは，浸透してきている。ルールそのものは，皆さん良いものだと思って頂いていると認識している。

八幡氏：現段階で航行安全上の問題は特段ない。

《議事 3-3 係留ブイの調整状況について》

東舟道氏：漁業関係は水産部局になるが，工法については協力したい。

野口氏：鹿川のブイに携わっているが，竹富町にも設置の協力をしてもらいたい。行政の協力が必要である。今度お願いに行く。

鹿熊氏：慶良間，座間味では結構ブイが設置されている。それは公式ではないということか？

平野氏：公式な，と言った理由は岩礁破碎許可を県から取得した事例がないという意味だった。

鹿熊氏：破碎許可は取っていると思うが。

《議事 3-4 自然再生協議会の体制変更に伴い設置される海域 WG について》

《議事 3-5 生活・利用部会の当面の取り組みについて》

鹿熊氏：マップはどんどん変わっていくものである。GIS を活用して、いつでも更新できるようにしておくことが良いのではないかと。レイヤーに分けておき、必要な情報を重ね合わせることができる。

事務局：その方向で考えたい。

平野氏：環境省も賛成である。

前田氏：特に意義はない。

吉田氏：PC 上の情報も必要だが、一般市民の人にも簡単にみられるような下敷きのようなものを作ると、より広報できて良い。

東舟道氏：マップについては良い案であると思う。マップを使う人が見やすいことがポイントだと思う。PC がない人にも見やすくする必要がある。

事務局：作成にあたって、情報提供の協力をお願いしたい。

東舟道氏：試験施工の埋没防止対策について興味がある。航路を掘った後に、自然石が落ちってしまうのではないかと。

事務局：小さい動きでもモニタリング可能なようにしてある。今後も注視する。

野口氏：オニヒトデが西表島ヌバル沖に大量に発生している。ダイビングスポットのため、早めに駆除対策をしたい。水深 10m より深いサンゴはダメになっている。1つのテーブルサンゴに 13~14 体群がっている。カヤマ島の斜面では去年の夏から発生している。少人数で対応できる数ではないため、竹富町に予算を組んでもらい、大人数で 1~2 回、6 月までに駆除したい。

鹿熊氏：水産庁などでも予算を出しているが、オニヒトデが多すぎて手が回っていない。オニヒトデ協議会では、全てを守ることは困難という認識で、重点区域を設定してサンゴを守ろうという考えである。重点区域として申請してはどうか。

野口氏：ダイビング、漁業者が使っている重要なポイントである。

平野氏：オニヒトデ対策は、海域 WG で検討することになっている。情報交換をしたい。